

**業況DIの現況判断は▲73、先行きは2p悪化の▲75を見込む
～新型コロナウイルスの影響が続き依然として厳しい情勢～**

【今回調査の結果概要】

- 業況DIの現況判断は▲73で、先行きは2ポイント（以下、p）悪化の▲75。
- 項目別では売上高DIの現況判断が▲75、営業利益DIは▲77となった。先行きは、売上高DIが横ばいの▲75、営業利益DIは3p改善の▲74。
- 労働力DIの現況判断は▲19、前回より26p改善したが人手不足感とコロナ影響による状況が交錯している。

（注）DIについて

業況判断、売上及び利益の増減、設備、労働力、在庫の過不足などについて、以下の式により、各項目のDIを算出。

$$DI = (\text{「良い」、「増加」、「上昇」、「過剰」とする回答企業の構成比}) - (\text{「悪い」、「減少」、「下落」、「不足」とする回答企業の構成比})$$

例) 業況が良いと回答した企業が15%、普通と回答した企業が64%、悪いと回答した企業が21%
⇒ 15（良いと回答）－ 21（悪いと回答） で 業況判断DIは▲6（マイナス6）

【調査の対象・期間・方法等】

1. 調査対象企業	人吉市内会員事業所 236 事業所
2. 調査時期	2020年6月12日（金）～6月30日（火）
3. 対象期間	2020年4月～6月（令和2年度 第1四半期）
4. 回答状況	97 事業所（回収率 41.1%）

【回答企業数と構成比】

業種	企業数 (社)	構成比 (%)	業種	企業数 (社)	構成比 (%)
製造業	11	11.3	飲食業	11	11.3
建設業	14	14.4	サービス業	22	22.7
観光関連業	12	12.4	業種不明	1	1.0
卸・小売業	26	26.8	全体	97	100.0

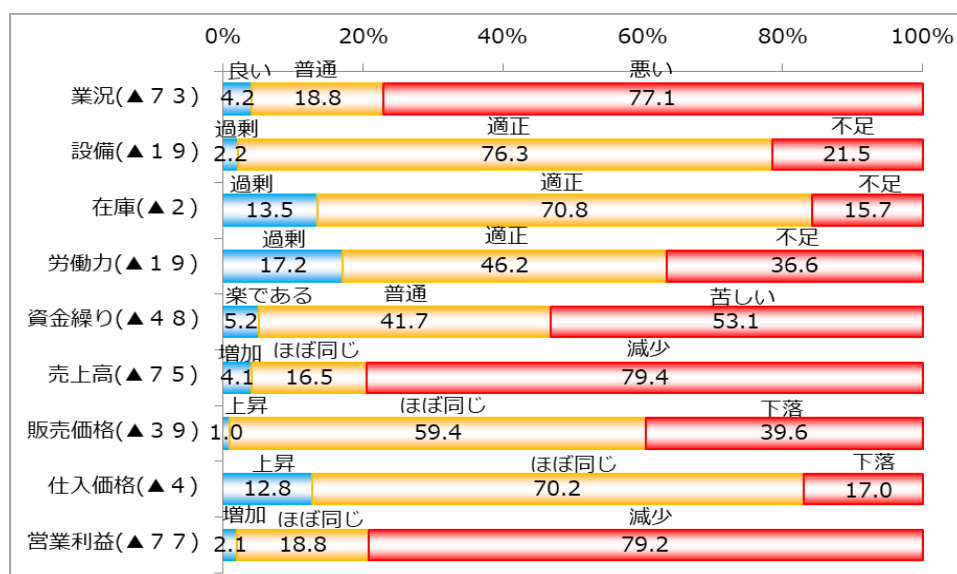
1. 概況

各項目の現況判断の回答結果は図表1のとおりである。

業況は「悪い」という回答が77.1%で最も多く、「良い」が4.2%、「普通」が18.8%となっている。業況D Iは▲73となっており、前回調査より26p悪化している。

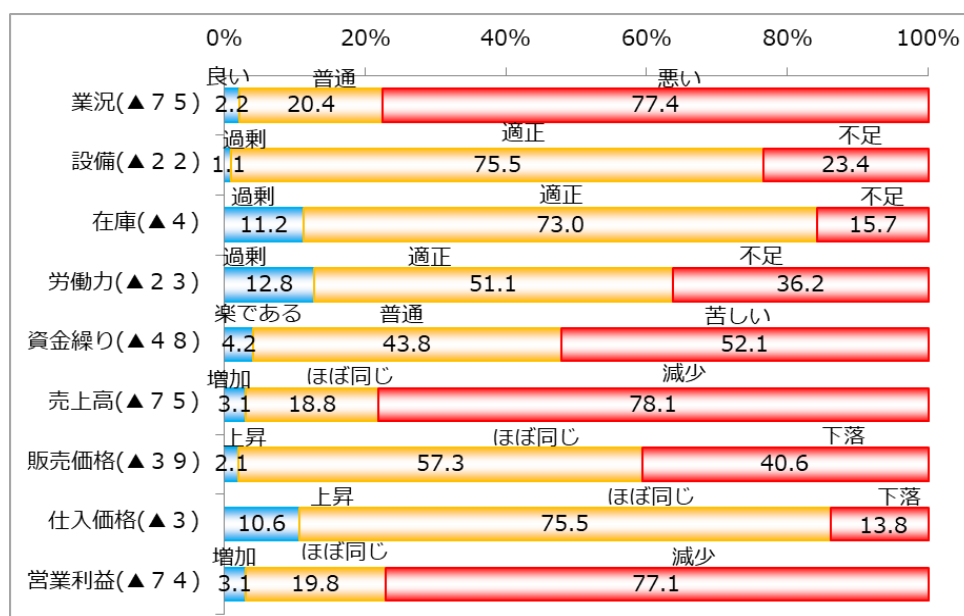
項目別にみると、「労働力」では「不足」という回答が36.6%で、人手不足感の強さが依然としてうかがえる。売上高DIについては、▲75となっており、減少という回答が79.4%となっている。また、営業利益DIについても▲77となっており、減少という回答が79.2%となるなど、コロナによる影響で厳しい状況がうかがえる。

図表1 項目別の現況判断



※項目名の () 内の数字はそれぞれの調査項目のD I

(参考) 項目別の先行き判断



2. 調査項目ごとの状況

(1) 業況D I

業況D Iの現況判断は▲73で、業種別にみると、前回調査に比べて、「卸・小売業」で改善しているが、「製造業」で横ばい、他の業種すべて落ち込んでいる。

先行きは2p悪化の▲75で、業種別では前回調査に比べて「製造業」「サービス業」で改善、他の業種で横ばいもしくは悪化している。

図表2 業況D I

	2020年 1～3月期 (前回調査)	2020年 4～6月期 (今回調査)	2020年 7～9月期 (先行き)	
			前回調査比	今回調査比
全体	▲47	▲73	↓	▲75 ↓
製造業	▲91	▲91	→	▲82 ↑
建設業	8	▲36	↓	▲54 ↓
観光関連業	▲63	▲100	↓	▲100 →
卸・小売業	▲57	▲54	↑	▲68 ↓
飲食業	▲14	▲100	↓	▲100 →
サービス業	▲48	▲81	↓	▲65 ↑

(2) 売上高D I

売上高D Iの現況判断は▲75で、前回調査比28p悪化した。業種別にみると、「建設業」が▲50で最も高い。前回調査に比べて、「製造業」で改善し、その他の業種で悪化している。

先行きは現況と同じ▲75となった。業種別では前回調査比で「製造業」「サービス業」で改善し、その他の業種で横ばいか悪化した。

図表3 売上高D I

	2020年 1～3月期 (前回調査)	2020年 4～6月期 (今回調査)	2020年 7～9月期 (先行き)	
			前回調査比	今回調査比
全体	▲47	▲75	↓	▲75 →
製造業	▲91	▲82	↑	▲64 ↑
建設業	▲23	▲50	↓	▲57 ↓
観光関連業	▲50	▲100	↓	▲100 →
卸・小売業	▲50	▲54	↓	▲65 ↓
飲食業	▲14	▲100	↓	▲100 →
サービス業	▲43	▲86	↓	▲76 ↑

(3) 営業利益D I

営業利益D Iの現況判断は▲77で前回調査比24p悪化した。業種別では前回調査に比べてすべての業種が悪化している。先行きは3p改善の▲74となった。業種別では前回調査に比べて「製造業」と「卸・小売業」で改善、その他の業種で横ばいもしくは悪化している。

図表4 営業利益D I

	2020年 1~3月期 (前回調査)	2020年 4~6月期 (今回調査)	前回調査比		
			2020年 7~9月期 (先行き)	今回調査比	
全体	▲53	▲77	↓	▲74	↑
製造業	▲60	▲91	↓	▲64	↑
建設業	▲23	▲57	↓	▲71	↓
観光関連業	▲63	▲100	↓	▲100	→
卸・小売業	▲57	▲62	↓	▲54	↑
飲食業	▲57	▲100	↓	▲100	→
サービス業	▲57	▲76	↓	▲76	→

(4) 労働力D I

労働力D Iの現況判断は▲19で、前回調査比26p上昇した。依然として人手不足の状況ではあるものの、コロナ禍の影響で人手不足感が弱まっていることがうかがえる。業種別でもすべての業種で上昇している。

先行きは4ポイント低下の▲23となった。業種別では前回調査に比べて「卸・小売業」「飲食業」で上昇し、「サービス業」で横ばい、その他の業種で低下している。

図表5 労働力D I

	2020年 1~3月期 (前回調査)	2020年 4~6月期 (今回調査)	前回調査比		
			2020年 7~9月期 (先行き)	今回調査比	
全体	▲45	▲19	↑	▲23	↓
製造業	▲9	27	↑	9	↓
建設業	▲54	▲38	↑	▲46	↓
観光関連業	▲38	40	↑	9	↓
卸・小売業	▲50	▲38	↑	▲35	↑
飲食業	▲57	▲20	↑	▲10	↑
サービス業	▲52	▲41	↑	▲41	→

3. 地域経済や業界動向等に関する自由記述

コメント	業種
4～6月（前期）はお客様の減少が著しかったが、自粛が解除されるとなると、急速に人出も多くなり、販売力も上昇に向かうと思われま。既に6月15日頃よりその気配が感じられています。	製造業
イベントの中止や学校の休校に伴いかなりの影響が出てきております。学校に関しては、4～6月の納品物件が無くなったが、10月頃にずれ込むのではと少し期待している。	製造業
昨年より受注が半分以下になり先行きが不透明。	建設業
労働者が高齢化しており若年層の新規就労者を受け入れるにも受注先が減少している。仕入れ価格は価格上昇の傾向が見られ、売り上げの減少に伴い営業利益も減少していき、事業の継続が困難になっていく予測である。特に建設業は景気に左右され易い面もある。補助金や助成金等の制度も他業種に比べ厳しい条件に思える。保証協会に寄らない、銀行に対する制度の周知や整備の簡素化を求めます。	建設業
GO TOキャンペーンの延期が濃厚となり、例年の売り上げ見込みも当面厳しい状況である。	観光関連産業
想定よりも観光客の戻りが遅く厳しい状態が続いている。	観光関連産業
非常事態宣言解除後も観光客の予約は少なく、ビジネス客中心の宿泊が当面は続くことを想定している（収束までには一年以上かかる予想）。コロナ後の新しい業務内容やマイクロツーリズムへの対処も考えたい。	観光関連産業
10万円支給で買い物に来る客がいたので、思ったより落ち込みが少なかった。	卸・小売業
4月中旬に近所でコロナ陽性者が判明し、店を一部休業した。借入金が入金されたことで、少し金銭的に余裕が見られた。	卸・小売業
コロナウィルス対策の商材が売れる特需で短期的には売上が上昇しましたが、第2四半期以降は厳しくなると予想されます。	卸・小売業
増税→コロナにより売上に影響があります。人手不足ですが、減収の中、新たな雇用は難しい（最低賃金上昇への懸念もあり）。	卸・小売業
努力で今まで何とかあったが、もう限界かもしれません。	卸・小売業
まだまだ先が見えないし去年との差が10分の1くらいの予約で不安です。ゼロの日もまだあります。	飲食業
新型コロナウイルスの影響で売り上げ利益も落ちている。また新人募集しても誰も来ない。	サービス業

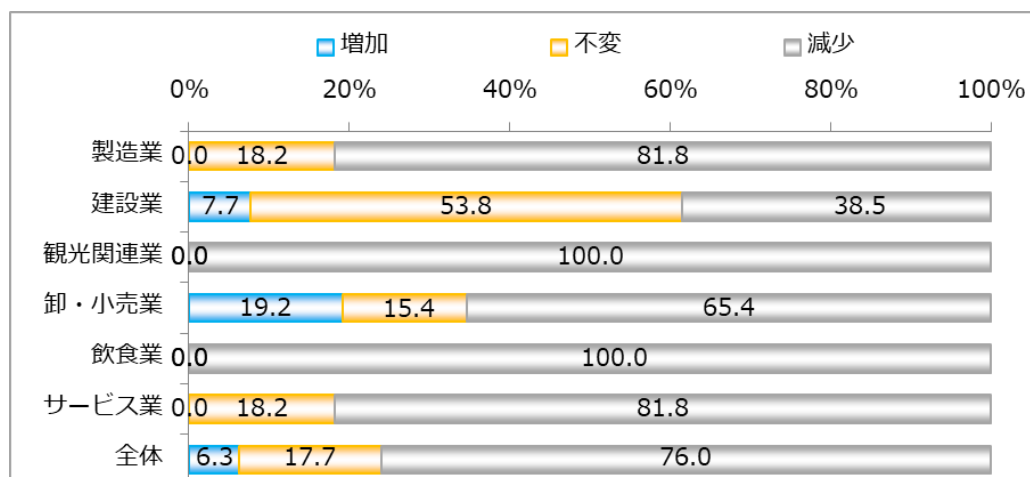
4. 特別テーマ「コロナの影響について」

(1) 2021年4月の売上高

コロナ禍の影響で売上高の減少が深刻となっている。2021年4月の売上高の水準を尋ねたところ、全体では前年比で64.97%となった。

業種別の状況をみると、「観光関連業」や「飲食業」ではすべての事業者で売上高が減少している。一方、「建設業」では売上高が減少した事業者は38.5%にとどまった。

・売上高の現状（増減：4月） ※全体平均64.97

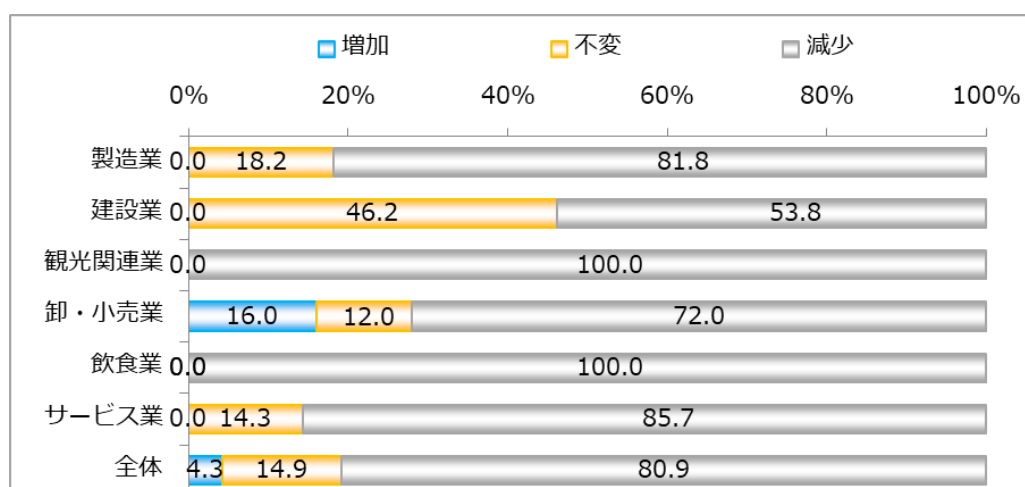


(2) 2021年5月の売上高

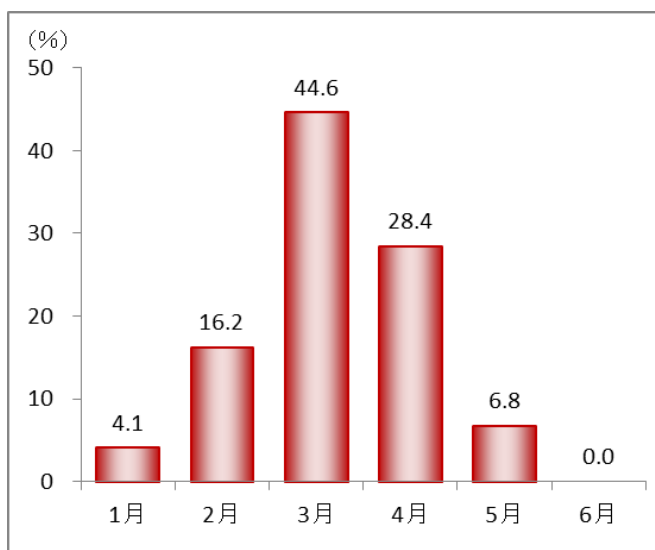
2021年5月の売上高を尋ねたところ、全体では前年比で61.51%となり、前月（2021年4月）の水準を割り込んだ。

業種別の状況をみると、前月と同様に「観光関連業」や「飲食業」ではすべての事業者で売上高が減少している。また、「建設業」でも売上高が減少した事業者が15.3ポイント増加するなど、幅広い業種に影響が出たことがうかがえる。

○売上高の現状（増減：5月） ※全体平均61.51



【参考】 コロナの影響が出始めた時期（月）



○コロナ影響に関する自由記述

コメント	業種
取引先の注文減に伴い生産数が下がり売りが落ち込んだ。	製造業
現状では直接の影響は少ないが、今後設備投資等の減少が予想される。	建設業
物流が止まった事により仕入れ価格が上昇し資材等が不足した。その事により予定していた工事の受注が出来なくなった。また、工事事体も中止や延期（無期限）に追い込まれている。	建設業
例年はGWからお客様がいらしていたが、今年は自粛で売りがゼロの状態。	観光関連産業
春節期間が終わったところからインバウンドが激減となっています。	観光関連産業
2/20日頃から売りに影響が出始め、3月に入ると減少の一途をたどり、4/10頃コロナ陽性者が出ると、ほぼ90%減の状態になり、4月下旬から5月中旬までは70%減でした。今は25%減です。	卸・小売業
6月に入って少し客足が遠のいた感じで、それに伴って売りが減少傾向に。	卸・小売業
近くにコロナ陽性の方が見つかって店を一部休業した。	卸・小売業
結婚式の中止・延期により3、4、5、6月は売上ゼロ（ブライダル貸衣装・美容）来年に延期が多いので年内の予定も未定ゼロに近い。	飲食業
人吉市でコロナ発生した時から客が激減しました。	飲食業
学校部活や企業研修の延期や中止。	サービス業
人吉市で感染者が出たことで、通所事業では特に利用者が感染を気にして利用が減り、27%売りが下がった。今後感染者が出た場合は事業の継続は難しい。	サービス業